

30E13-pm02

英国における薬局薬剤師の高度業務から学ぶブラウンバッグ運動の新しい方向性

○赤沢 学¹, 野村 香織² (¹明治薬大, ²慈恵医大)

目的：いくつかの地域では薬局薬剤師によりブラウンバッグ運動が実施されている。これは服用薬を点検することで、医薬品適正使用を促進するための薬剤師による介入プログラムである。この運動において患者選択や潜在的問題の改善をより効果的に行うために、英国で2005年に導入された薬局薬剤師の高度業務である Medicines Use Review (MUR) を調査し、新しい方向性を模索した。

方法：MURの実施に必要な薬剤師や薬局の資格要件、対象患者、報酬などについてインターネットを通じた情報収集を行った。その上で、職能団体、教育関係者、地域薬局を訪問し、あらかじめ質問内容を通知した上で面接調査を行った。

結果：MURは主に慢性疾患に対する薬物治療をうけている患者を対象とした薬局薬剤師による無料の服用薬点検サービスである。何を服用しているかを確認するよりも、どのように服用しているかを確認し、潜在的問題点の早期発見・早期対策とアドヒアランス向上を目的としている。サービスを提供する薬剤師には薬物療法の知識に加え、コミュニケーション能力が求められ、オンライン学習、資格認定の機会が提供されている。患者プライバシーを考慮した薬局設備も重要である。MURの導入以来、実施件数の増加とそれに伴う成果が明らかになってきている。また、医師への情報提供の仕組みや対象患者の選択など、より効果的なプログラムへの改善も進められている。更に、薬物治療開始直後の患者を対象にした薬剤師介入サービス (New Medicine Service) も新規に導入された。

結論：対象患者の選択、チェックリストの確認項目、問題を発見したときのフィードバックの仕組みなど、多くの事例を学ぶことが出来た。これらを改善した上で、ブラウンバッグ運動を更に発展させていきたい。